



特集

外国人住民の第二のふるさとへ

川根本町には現在、13カ国 96名の外国人が暮らしています。

令和5年度、静岡県と川根本町、㈱KAWANEホールディングスは、川根本町に外国人材を呼び込み、地域活性化を図る目的で「外国人材のための第二の故郷」創出支援事業を行いました。

本号では外国人材を呼び込むための課題と解決へ向けての取り組み、交流事業の様子を報告します。

【問】経営戦略課 まちづくり推進室 ☎0547 (56) 2221

聞き取りで学んだ課題

- ①外国人材を呼び込むのに、川根本町の知名度が低い
- ②外国人住民の存在を知らない人が多い
- ③日本語を学びたいが機会がない
- ④外国人と住民と接する機会が少ない



解決に向けての計画

- ①外国人住民の視点を活かして SNS で情報発信
- ②広報誌などで外国人住民を紹介
- ③日本語教室の開催
- ④地域や学校での交流事業を実施
住民サポーター制度の検討



外国人住民等へ聞き取りを実施

今年度の取り組みとして、サテライトオフィスで働く外国人社員や、町内企業で働く技能実習生、外国人移住者、普段から外国人住民と交流のある地域住民に聞き取りを実施しました。
外国人住民が当町を第二の故郷と感じられるように、来年度以降、取り組んでいきます。

地域住民と外国人住民との交流事業

今年度は①伝統芸能による交流（2回）、②スポーツによる交流（5回）、③学校での交流（3回）、④料理による交流（3回）を計13回行いました。

交流事業に参加した地域住民からは「川根本町にこんなに多くの外国人が住んでいるなんて知らなかった！」という声が多数聞かれました。「お互いを知ること」が交流の第一歩！外国人、日本人と区別することなく、地域の一員として協力し合いながら暮らしていくため、来年度も交流事業を続けていく予定です。

赤石太鼓の練習に参加

太鼓を演奏したのは初めてで難しかったけど、楽しかった！
(ネパール出身 マガールさん)



練習会に7名の外国人住民が参加。赤石太鼓保存会のメンバーが熱心に指導してくれました。

クリケット体験

クリケットのバットが想像以上に重くてビックリ!!
(参加町民)



ZOH0のインド社員が講師となり、町民向けに5回、川根高校の授業で2回の体験を行いました。

料理で交流

日本人住民が講師となり、外国人住民と一緒に日本のお正月料理（餅つき、お雑煮、おしるこ、栗きんとん）を作りました。

日本食が大好き!!みんなフレンドリーに教えてくれたとても楽しく思い出に残るイベントになりました!
(中国出身 陳さん)



インドにはお餅がなく、はじめて食べたけどとてもおいしかったです!
(インド出身者)

最初は緊張したけど、一緒に作業していく間に仲良くなって楽しい時間を過ごすことができました!
(日本人講師)

